

## リンゴ単植園における受粉専用品種の利用

リンゴは他品種の花粉で受粉しないと結実しないので、多くのリンゴ園では早生の「つがる」や晩生の「ふじ」等、複数の栽培品種を混植しています。この場合、農薬の使用基準(収穫前日数等)が品種により異なるので、農薬の散布作業が非効率になるばかりでなく、他品種への農薬飛散により使用基準に違反するおそれがあります。複数品種の混植を行わない「単植園」とすればこの問題は回避できますが、人工受粉が必要となります。そこで、(独)農研機構果樹研究所では、公立試験研究機関、大学等と共同で、リンゴ単植園において人工受粉を行わず、受粉専用品種と訪花昆虫を利用して結実を確保する方法を開発したので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 市販の鑑賞用リンゴ品種の中で、「ドルゴ」、「メイポール」(写真1)、「ネヴィル・コープマン」の満開期は「ふじ」および「つがる」より数日早く、「スノードリフト」(写真2)は同時期です。これらの4品種は「ふじ」および「つがる」との交雑和合性が高く、単植園における受粉専用品種として利用できます。



← 写真1 「メイポール」の樹姿

写真2 「スノードリフト」の着花状況  
↓



2. 満開時の花色は「メイポール」、「ネヴィル・コープマン」は赤色、「ドルゴ」、「スノードリフト」は白色(蕾は桃色)です。ミツバチは赤花品種への訪花頻度が劣るので、ミツバチを利用する場合は、白花品種を導入します。マメコバチは赤花、白花とも十分訪花します。
3. 受粉専用品種の園地への導入は、ポットで育苗した大苗の移植や栽培品種の樹冠上部への高接ぎにより行うと、早期に結実率が向上し変形果の発生を抑制できます。訪花昆虫による効率的な受粉のためには、受粉専用品種から栽培品種までの距離は7.5m以内が望ましいです。
4. 「メイポール」、「ネヴィル・コープマン」、「ドルゴ」は隔年結果性が強いので、摘果により連年着花させます。「スノードリフト」は、落花直後または休眠期に前年枝を数芽残して強く切り返しせん定を行うと、樹形をコンパクトに維持することができます。

### ☆ 活用面での留意点

1. 「ふじ」と「つがる」以外の栽培品種でも、交雑和合性があり、開花期が一致すれば、これらの受粉専用品種の利用が可能です。
2. 園地への導入方法等は、「リンゴ単植化の手引き(果樹研究所編)」(果樹研究所ホームページ [http://www.fruit.affrc.go.jp/publication/man/ringo/ringo\\_tansyokuka.pdf](http://www.fruit.affrc.go.jp/publication/man/ringo/ringo_tansyokuka.pdf))に記載されています。その他、詳細については(独)農研機構果樹研究所リンゴ研究チーム(電話:019-645-6155)にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 後藤 明彦)